

の各委員会の主導により学校や地域の公衆衛生を改善するプロジェクトが実施されました。生徒からは、活動への参加でポジティブな内面の変化があったという声も聞かれ、事業の成果が少しずつ現れています。



東エルサレム：学校保健委員会に所属し、JVCのパートナー団体の研修を受けた生徒が、低学年の生徒に負傷時の手当について講義する様子

● 根本原因である占領と向き合う アドボカシー

[活動概要] 人権侵害をもたらすイスラエルの占領政策を問題として提起するため、パレスチナの人びとの声を集めて発信し、日本政府や国際社会に占領・封鎖終結に向け行動するよう働きかけています。

[成果] パレスチナの状況悪化を食い止める国際社会の緊急行動、ガザのデモ参加者への不法な殺害・武器使用中止を求める声明に、現地の国際NGOネットワーク「AIDA」の一員として賛同しました。またデモ負傷者の救助に従事していた救護ボランティア女性が射殺された事件を受け、抗議文を日本の報道各社等に向けて発表した他、議員や領事館への働きかけ、現地の人々の声や窮状を伝えるイベントやメディア発信も行いました。新しい取り組みとして、イスラエルでの企業インターンシッ

プに参加した日本人グループに対し、パレスチナの現状やJVCの活動について講演しました。

● ガザ緊急支援

2018年3月30日の「土地の日」に始まった、封鎖解除や難民の帰還権を求める毎週金曜日のデモに対するイスラエル側の武力攻撃により、2019年3月までに延べ29,187人が負傷、271が死亡しました。銃撃を受けた人の多くが右足や首を狙われ、緊急治療と長期のリハビリが必要となることを受け、現地で唯一のリハビリ専門病院へ資金提供を行いました。

[成果] 7月以降の半年間で寄付の呼びかけや講演を通じ約160万円が集まり、病院で医療機器や医薬品、その他患者の入院に必要な物品の購入に充てられました。



デモで負傷した患者に聞き取りを行うJVCスタッフ

活動地からの声

アスィールさん
24歳 女性
マガジ難民キャンプ在住



貧血が治った長男のアリ君と完全母乳育児で育った妹

私は17歳で結婚し、乳児を含む4人の子どもがいます。AEIの保健師とボランティアが子どもの健康チェックのために家に来てくれました。すぐに長男が貧血であることが分かり、そのままAEIの診療所に紹介してもらって治療を受け、貧血は改善しました。アドバイスをもらうまでは母乳育児の大切さを知らず、すぐ人工乳に切り替えていましたが、今では母乳育児を継続しています。紅茶を乳児に与えるのもやめました。さらに講習で栄養バランスについて学んだので、買い物をする時は栄養のある野菜や果物を積極的に買っています。全ての活動に参加しましたが、どれも楽しく、地域の子どもの良い影響を及ぼしていると思います。

